

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、2022年春卒業予定の大学生を対象にしたインターンシップ（就業体験）を全てオンラインで実施する地域企業が出てきた。感染リスクを避けつつ、岡山県内外の学生に広く自社の魅力を伝えようと、新たな手法に挑戦している。（栢植祐二）

## 岡山県内企業が新手法

「各メーカーのころころを実際に見て触ってもらえる最新のショールームです」。スマートフォンのカメラに向かい、プロパンガス販売のつばめガス（岡山市南区福田）の営業社員が語り掛けた。

今月上旬、倉敷支社（倉敷市中島）で行った同社のオンラインインターンシップ。オフィスやキッチンスタジオなどをカメラで写し



ながら案内し、若手社員を交えた座談会では、参加した学生13人から質問が途絶えなかった。

同社は新型コロナウイルス感染の長期化を見越し、春の時点で完全オンライン化を計画。カメラワークなどのリハーサルを繰り返してきた。8、9月に行う3回分の定員計60人は募集を始めるとすぐに埋まり、追加開催を準備している。

桑原怜社長は「ライフレ

## 感染リスク回避 県外学生にもアピール

インを支える仕事だけに社内の感染リスクを一番に警戒した」と説明。「例年は話す。参加学生の大半が県内在住者だが、今回は半分近くが東京や大阪など県外の学生。より幅広いアプローチができた」と手応えを語る。

医療用品メーカーのタイヤ工業（岡山市南区古新田）も、9月上旬に開くインターンはオンラインのみの開催だ。例年は取引先の整骨院を学生と訪ね、商品提案などを体験していたが、今年はウェブ会議システムを使った模擬商談に切り替える。

人事担当者は「新型コロナウイルスの影響で、当社では実際の営業活動もオンラインが主流になっている。今の仕



オンラインインターンシップでショールームを案内するつばめガスの社員

が双方のメリットを踏まえ、対面とオンラインを使い分ける柔軟な対応が求められている」としている。